おやばと

発行所
公益社団法人自衛隊家族会
〒162-0845
東京都新宿区
市谷本村町5-1
(TEL)03-5227-2468
(FAX)03-5227-2473
購読料１ヶ月一部110円
ホームページ
http://www.jkazokukai.or.jp/
メールアドレス
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

唯一無二の役割を持つ防衛力の強化が必要不可欠

令和5年度航空観閲式で強調

欧州では、ロシアのウクライナ侵略が続き、中東では、イスラエルとハマスの戦いも続いています。激変する国際情勢の中、11月16日（現地時間）から、米国・サンフランシスコでAPEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議が行われ、これに併せてバイデン大統領と習近平国家主席との米中首脳会談、岸田文雄総理大臣と習近平国家主席との日中首脳会談も行われました。日中首脳会談では戦略的互恵関係を包括的に推進していくことを再確認しています。国内では、11月11日に令和5年度航空観閲式が入間基地で開催され、岸田文雄総理大臣は「唯一無二の役割を持つ防衛力の強化が必要不可欠」と強調しました。

巡閲する岸田総理大臣（首相官邸HP）

令和5年度航空観閲式

令和5年度自衛隊記念日行事の「航空観閲式」が11月11日、自衛隊最高指揮官の岸田文雄総理大臣を観閲官に迎えて空自入間基地で開催されました。今年は、基地の隊員をはじめ計約2000人が参加。前回2020年の航空観閲式と同様、規模を縮小し、無観客で行われました。

岸田総理大臣は、日本周辺での中国とロシアとの爆撃機共同飛行、北朝鮮による弾道ミサイル発射の繰り返しに対して警戒感を示し「防衛力の強化が必要不可欠だ」と訴えました。

同時に、防衛費についても「必要な予算水準を確保する」と述べ、国の安全を確保するための予算の充実を強調しました。

一方で、自衛隊内で相次いで発覚したハラスメント問題にも言及。「一切許容しない組織環境を作り上げ、仲間同士助け合って任務に臨むことを忘れないでもらいたい」と呼びかけ、組織内の健全な環境づくりへの意欲を示しました。

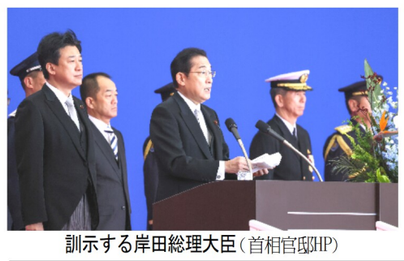
観閲式には、防衛省から木原稔防衛大臣の他、増田和夫防衛事務次官、吉田圭秀統合幕僚長をはじめ各幕僚長などが出席。

式典後、岸田総理大臣、木原防衛大臣は、基地所在の部隊を視察しました。

視察する岸田総理大臣（首相官邸HP）

令和5年度航空観閲式

岸田総理大臣訓示（抜粋）


訓示する岸田総理大臣（首相官邸HP）

本日、ここ入間基地での航空観閲式に臨み、意気天を衝（つ）き、鋭気漲（みなぎ）る隊員諸君の勇姿を目の当たりにし、自衛隊指揮官として大変頼もしく思います。

隊員諸君の頭上に広がるこの大空は、万里鵬翼（ほうよく）の彼方（かなた）、遠く中東の空までつながっています。今、緊迫した中東情勢を受け、邦人等の輸送のため、諸君の仲間と航空自衛隊の輸送機が派遣されており、既に2度にわたり計129名の邦人・外国人が自衛隊機で現地から出国し、日本に到着されました。多くの子供たちも自衛隊機に搭乗して出国しましたが、隊員たちが声をかけ、一緒に折り紙で遊んだりして、常にリラックスできるよう努めたので、保護者から「子供が遊ぶ姿を見てホッとした」との声があり、子供たちの中からは「どうやったら自衛隊になれるの」と、隊員たちに質問があったと聞いています。

正に、隊員たちはプロフェッショナルの仕事をし、国民の期待と信頼に応えてくれました。これは、輸送機を運航した隊員だけではなく、情報収集から飛行計画、機体の整備や警備、現地での調整などに当たった全ての隊員たちがワン・チームとなって成し遂げた成果であり、引き続き現地で待機している隊員たちを含め、諸君の働きを高く賞したいと思います。

今、隊員諸君が直面している世界は、歴史の転換点と言うべき大きな変化を迎えています。

ロシアによるウクライナ侵略は、明白な国際法違反であり、核兵器による威嚇とともに、国際秩序を根幹から揺るがす許し難い暴挙です。

我が国周辺においても、一方的な現状変更の試みが強化されており、また、中国とロシアが爆撃機を共同飛行させるなど、軍事活動を活発化させています。

北朝鮮も核・ミサイル開発を進展させるとともに、昨年以来80発近くのミサイルを日本海に向け発射しており、我が国にとって、より一層重大かつ差し迫った脅威となっています。

このように、日本は戦後もっとも厳しく複雑な安全保障環境のただ中にある。こうした難局を乗り切り、国民の命と安全、国の平和と繁栄を保つため、政府は、昨年末、新たな国家戦略である3文書を策定いたしました。

我が国に望ましい国際環境を生み出すためには、国家安全保障戦略に示したとおり、まず外交努力が欠かせません。

力強い外交に説得力と迫力を持たせるものこそ、我が国自身の防衛努力です。

防衛力は、我が国を守り抜くという不屈の意思と能力を示すものであり、安全保障を最終的に担保する力です。すなわち、防衛力の中核を担う隊員諸君の役割は、他の何物によっても代替できない、諸君だけが果たし得る任務です。

今、こうした唯一無二の役割を持つ防衛力の強化が必要不可欠です。私は、従来の延長ではなく、我が国を守り抜くための防衛力を積み上げ、必要な予算水準を確保して、防衛力を抜本的に強化することといたしました。

特に、我が国への攻撃を抑止し、万一攻撃があった場合には更なる攻撃を防ぐため、反撃能力の保有を決定しました。このため、スタンド・オフ・ミサイルの整備を速やかに進めます。

また、次世代の翼となる次期戦闘機を、初めて日英伊で国際共同開発します。

この大空は宇宙にもつながっています。自衛隊の宇宙作戦能力を強化し、令和9年度までに 航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とします。

今この瞬間も、諸君の仲間である多くの隊員たちが、各地で任務に当たっています。24時間365日、弛（たゆ）むことなく、黙々と任務に当たる隊員諸君一人一人が流す汗こそが、国民の命と、日本の平和を守ってくれる。

私は、このことを片時も忘れることなく、諸君の先頭に立って、自衛隊指揮官としての重責を果たしてまいります。諸君におかれても、高い士気と誇りをもって国の防衛という任務に当たってもらいたい。

この崇高な任務に取り組む隊員諸君同士は、軍種、階級、職種、性別の区別なく、志を一つとして取り組む仲間である。共に任務に当たる仲間に対するあらゆるハラスメントを一切許容しない組織環境を作り上げ、ハラスメントを根絶して、仲間同士助け合い、励まし合って任務に臨むことを忘れないでいただきたい。

最後に、国民の命と平和な暮らし、日本の領土・領海・領空を断固として守り抜くことを期待し、日本の繁栄と未来を諸君の双肩に託しています。

国民の期待に応え、託された使命を全うすべく、各員が勇往邁進（まいしん）し、一層奮励努力されんことを切に希望し、私の訓示といたします。

令和5年11月11日
自衛隊最高指揮官
内閣総理大臣　岸田　文雄

民間空港などでも訓練を実施

令和5年度統合演習

自衛隊は11月10日から20日の間、令和5年度自衛隊統合演習（統裁官・吉田圭秀陸将・統合幕僚長）を実施しました。

この演習は、陸・海・空自衛隊が参加し、自衛隊の統合運用能力を維持・向上させるもので、訓練の一部には、米軍が参加し、日米の相互運用性の向上も図っています。

参加部隊は、陸・海・空自衛隊から人員約3万8百人、車両約3千5百両、艦艇約20隻、航空機約210機、米軍から人員約1万2百人。この他、豪州、加国、仏国、NZ、比国、韓国、米国、英国、独国およびNATOからオブザーバーが参加しました。

演習は自衛隊施設、在日米軍施設・区域およびわが国周辺海空域とともに、民間空港・港湾および川崎市、柏崎市、御前崎市、唐津市、佐世保市、諫早市、対馬市、壱岐市、奄美市、奥尻町、東通村、横浜町、東海村、大和村、徳之島町、天城町、伊仙町、与那国町で行われました。

なお、17日には、鹿児島県・奄美大島の民間空港で初めてとなる戦闘機の離着陸訓練「タッチ・アンド・ゴー」が行われ、19日には、鹿児島県・徳之島で島嶼防衛を想定して上陸作戦と連動する形で陸自隊員がパラシュートで降下する訓練を実施しています。

報道によると視察した吉田統幕長は「演習場でない実際の島で訓練できた意義は大きい。宇宙やサイバーの領域との連携も含めて向上が確認できた」と述べています。

護衛艦に着艦（統幕HP）

自衛隊音楽まつり

フィナーレ（陸幕広報室）

11月17日と18日の両日、日本武道館で令和5年度自衛隊音楽まつりが4年ぶりにコロナ禍を脱し、行動制限のない状態で開催され、全7回（16日リハーサル公演を含む）で約2万6千人の聴衆を魅了しました。

今年は「＋（タス）×（カケル）ヒビク 終わらない力の始まり」という、コロナ禍や自然災害などのマイナスな経験もプラスに変えていくことを表現したテーマに基づき、各種制限のない演出で音楽の「力」と出演部隊の「絆」それに「希望」をカケルことで無限の可能性を訴えるストーリー。コロナ禍を脱した喜びを感じさせる公演となりました。

出演部隊は、ゲストバンドのマレーシア軍中央音楽隊、在日米陸軍軍楽隊、米海兵隊第3海兵機動展開部隊音楽隊、自衛隊からは陸上自衛隊中央音楽隊、海上自衛隊東京音楽隊、航空自衛隊航空中央音楽隊、陸上自衛隊中部方面音楽隊、陸上自衛隊第302保安警務中隊、自衛太鼓（12個チーム）と防衛大学校儀仗隊。

在日米陸軍軍楽隊は、来年10月頃に部隊が廃止予定であることから最後の出演となり、これまで41回の出演を重ねてきた同軍楽隊の演奏に会場内から惜しみない拍手が送られました。

最後の出演の在日米陸軍軍楽隊（陸幕広報室）

日英の軍事関係の強化

「2＋2」と共同訓練の実施

日英閣僚会合（防衛省HP）

11月7日、木原稔防衛大臣は、上川陽子外務大臣と共に、グラント・シャップス英国国防相およびジェームス・クレバリー英国外務・英連邦・開発相との間で、第5回日英外務・防衛閣僚会合（「2＋2」）を実施しました。会合では、日英伊で共同開発する次期戦闘機をはじめ先端の防衛装備の開発で協力を深めること、英国軍が2025年に計画する空母打撃群のインド太平洋への派遣で連携することなども合意しています。

また、10月に発効した自衛隊と英国軍の往来手続きを簡素にする円滑化協定を活用し共同演習を拡充することを確認しています。

その円滑化協定に基づく初めてとなる日英共同訓練が、11月15日から26日の間、群馬県の陸自相馬原演習場などで行われました。

共同訓練は、陸上自衛隊と英国陸軍との共同訓練「ヴィジラント・アイルズ23」で、英陸軍からは第1王立グルカライフル大隊など、過去最大規模の約200人が参加。第1空挺団などと合わせて計600人が参加し、日英両国の地理的特性を踏まえ、島嶼防衛に係る一連の行動を訓練しました。

主な記事

シリーズ企画
◇唯一無二の役割を持つ防衛力の強化が必要不可欠　1面
◇回想「コロナ禍に学ぶ遠洋航海」北極のお話　2面
◇論壇「北の海と空から」　3面
◇特集「最東端の自衛隊　南鳥島航空派遣隊」　8面
自衛隊の学校（第45回）　8面
米国事情（第30回）　6面
歌壇・俳壇、健康の扉　6面
シニアの鉄人「年金受給と確定申告①」　7面
家族会長等叙勲記　8面